

—— 色彩の面積構成の視覚的効果について ——

奈良女大家政

○竹原広実 久保博子 磯田憲生 梁瀬度子

目 的 本研究室では、住宅居間における視環境要素の中でも、居住者の自由なしつらいと関係がある室内装備要因を取り上げ、その心理的影響を検討しているがその研究の一環として本研究では居間における色彩の面積構成に特に着目し、その配置、色彩、柄などがどのように室内雰囲気に影響しているかを検討した。

方 法 住宅雑誌などから選んだ実際の居間の写真をCRT画像処理により、装備要因、色彩とその面積の割合および配置、柄などの要因を組み合わせ、合計93種の評価対象を作成した。それらをスライドに撮影し、実験室にて映写したものを、被験者に観察させ、24の形容詞対について7段階SD法で評価させた。

結 果 居間の雰囲気評価のSD得点をもとに因子分析を行った結果より、4因子が析出され、第I因子を価値(Evaluation)、第II因子を活動性(Activity)、第III因子を開放感(Openness)、第IV因子を暖かさ(Warmness)と意味づけた。今回の研究では、色彩面積の配置による影響はあまりみられなかった。また、色相は5B、5YRの2種を用いたがその影響が大きい為、色相別に考察した。室の居住性、質的な良さ(価値因子)に関する項目には、5Bは装備要因が、5YRは明度が、室の快活感、開放感に関する項目には、5Bは明度が、5YRは色面積の占める割合がそれぞれ影響を及ぼしており、また、暖かさに関する項目は、5B、5YRともに装備要因に影響を及ぼしていることがわかった。また、色相にかかわらず快活感、暖かさに関する項目には柄物が、開放感には無地のものがプラスの影響を与えていることが明らかとなった。